

問うて云はく、法華経の第四法師品ほっしほんに云はく「難信難解なんしんなんげ」云云。いかなる事ぞや。答へて云はく、此の経は仏説き給ひて後、二千余年にまかりなり候。月氏がっしに一千二百余年、漢土かんとに二百余年を経て後、日本国に渡りてすでに七百余年なり。仏滅後に此の法華経の此の句を読みたる人但三人なり。所謂月氏には竜樹菩薩りゅうじゅぼさつ。大論に云はく「譬へば大薬師たやくしの能く毒を以て薬と為すが如し」等云云。此は竜樹菩薩の難信難解の四字を読み給ひしなり。漢土には天台智者大師と申せし人読んで云はく「已今当の説最も為れ難信難解いこんとう」云云。日本国には伝教大師読んで云はく「已説の四時の経、今説の無量義経むりょうぎ、当説の涅槃経ねはんは易信易解いしんいげなり、随他意ずいたいの故に。此の法華経は最も為れ難信難解なり、随自意の故に」等云云。

問うて云はく、其の意如何。答へて云はく、易信易解は随他意の故なり。難信難解は随自意の故なり云云。弘法大師並びに日本国東寺とうじの門人しをもわく、法華経は顕教けんぎょうの内の難信難解にて、密教に相對すれば易信易解なり云云。慈覚・智証じかくちしょう並びに門家の思ふやう、法華経と大日経は俱ともに難信難解なり。但し大日経と法華経と相對せば法華経は難信難解、大日経は最も為れ難信難解なり云云。此の二義は日本一同なり。日蓮読んで云はく、外道の経は易信易解、小乗経は難信難解。小乗経は易信易解、大日経等は難信難解。大日経等は易信易解、般若経は難信難解なり。般若と華嚴と、華嚴と涅槃と、涅槃と法華と、迹門と本門と、重々の難易あり。

問うて云はく、此の義を知りて何の詮か有る。答へて云はく、生死の長夜を照す大灯、元品がんぽんの無明むみょうを切る利剣りけんは此の法門には過ぎざるか。随他意とは、真言宗・華嚴宗等は随他意・易信易解なり。仏、九界の衆生の意樂いぎょうに随つて説く所の経々を随他意という。譬へば賢父けんぶが愚子ぐしに随ふが如し。仏、仏界に随つて説く所の経を随自意という。譬へば聖父せいふが愚子を随へたるが如し。日蓮此の義に付いて大日経・華嚴経・涅槃経等かんがを勘へ見候に、皆随他意の経々なり。

問うて云はく、其の随他意の証拠如何。答へて云はく、勝鬘経しょうまんに云はく「非法を聞くこと無き衆生にんでんには人天の善根を以て之を成熟じょうじゆくす。声聞を求むる者には声聞乗を授け、縁覚えんがくを求むる者には縁覚乗を授け、大乘を求むる者には授くるに大乘を以てす」云云。易信易解の心是なり。華嚴・大日・般若・涅槃等又是くの如し。「爾の時に世尊、

薬王菩薩に因せて八万の大士に告げたまはく、薬王、^{なんじ}汝是の大乘の中の無量の諸天・
竜王・^{やしや}夜叉・^{けんたつば}乾闥婆・^{あしゅら}阿修羅・^{かるら}迦樓羅・^{きんなら}緊那羅・^{まごらが}摩睺羅伽・人と非人と及び比丘・
比丘尼・^{うばそく}優婆塞・^{うばい}優婆夷の声聞を求むる者、^{びやくしがつ}辟支仏を求むる者、仏道を求むる者を見
るや。是くの如き等類 ^{たくいことごと}咸く仏前に於て妙法華經の ^{いちげ}一偈一句を聞いて、一念も ^{ずいき}隨喜する
者には我皆記を与へ授く、当に阿 ^{ぼだい}菩提を得べし」文。諸經の如くんば、人には五戒、
天には ^{じゅうぜん}十善、^{ぼん}梵には ^{じひきしゃ}慈悲喜捨、^{むしや}魔王には一無遮、比丘には二百五十、比丘尼には五百
戒、声聞には ^{したい}四諦、縁覺には十二因縁、菩薩には六度なり。譬へば水の ^{うつわ}器の方円に隨
ひ象の敵に隨つて力を出すがごとし。法華經は ^{しか}爾らず。八部・^{しゆ}四衆皆一同に法華經を演
説す。譬へば ^{じょうぎ}定木の曲がりを削り、師子王の剛弱を嫌はずして大力を出だすがごとし。
此の明鏡を以て一切經を見聞するに、大日の三部・浄土の三部等隠れ無し。

^{しか}而るをいかにやしけん、弘法・慈覺・智証の御義を本としける程に、此の義すでに日
本国に ^{おんもつ}隱没して四百余年なり。珠をもつて石にかへ、^{せんたん}栴檀を ^{ほんぼく}凡木にうれり。仏法やうや
く顛倒しければ世間も又 ^{じょくらん}濁乱せり。仏法は体のごとし、世間はかけのごとし。体曲が
れば影なゝめなり。幸ひなるは我が一門、^{ぶつち}仏意に隨つて自然に ^{さばにやかい}薩般若海に流入す。苦し
きは世間の学者、隨他意を信じて苦海に沈まん。委細の旨又々申すべく候。恐々謹言。

五月廿六日

日 蓮 花 押

富木殿御返事